

シンポジウム

テクノロジーが育てることば

新たなテクノロジーの誕生で、人々の生活が急速に変化しています。

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）をはじめとする情報技術の発達は、人々が育む文化にも大きく影響しています。

グーテンベルクによる印刷技術の発明以来とされるデジタル革命のただ中で、文字・活字文化はどのようにその姿を変え、情報の送り手・受け手はどのような心構えを求められているのでしょうか。

これまで創作やジャーナリズムを支えてきた文字・活字文化とテクノロジーのかかわりについて、作家やジャーナリスト、研究者らに議論していただきます。

日時：2017年9月12日 [火] 18:30~21:00

会場：日経ホール

(東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル3F)

主催：日本経済新聞社

文字・活字文化推進機構

主催者挨拶

吉田 直人 (日本経済新聞社常務取締役)

阿刀田 高 (文字・活字文化推進機構副会長)

第一部 対談

「デジタルは創作をどう変えたか」

長嶋 有 (小説家)

佐渡島庸平 (編集者、コルク代表取締役社長)

第二部 パネル討論

「ソーシャル・ネットワークと情報リテラシー」

パネリスト

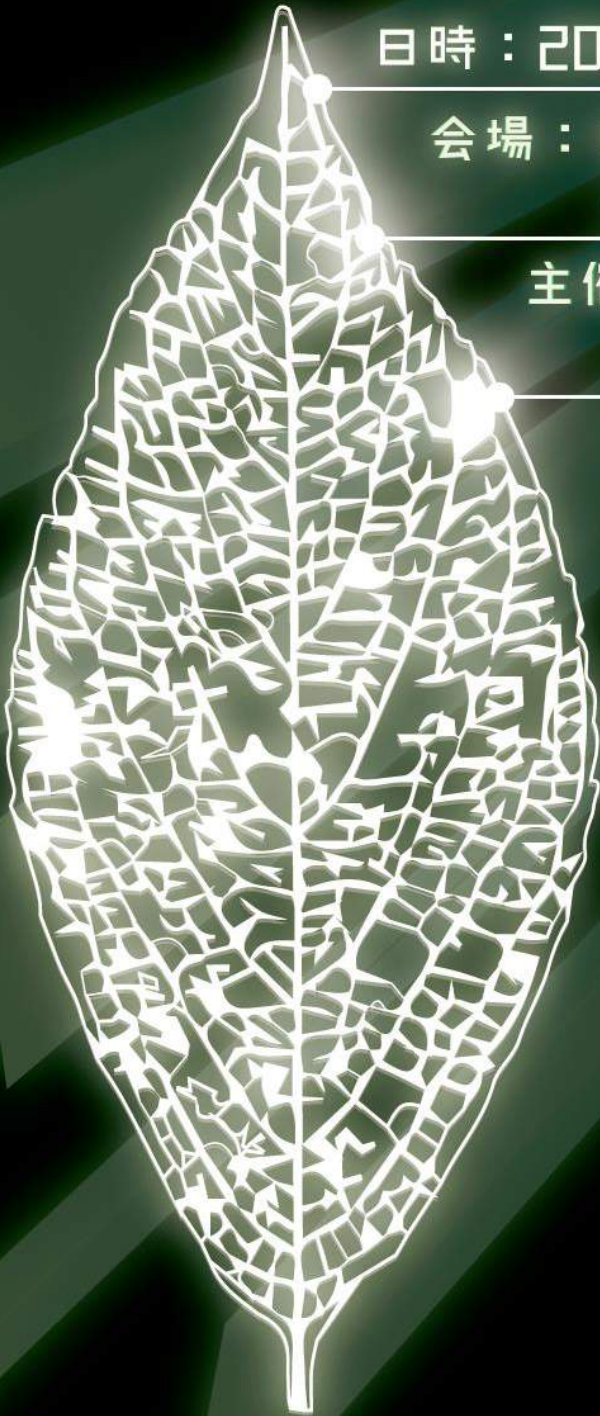
河野 勝 (政治学者、早稲田大学教授)

堤 未果 (国際ジャーナリスト)

佐渡島庸平 (編集者、コルク代表取締役社長)

モデレーター

関口 和一 (日本経済新聞社編集委員)





ながしま ゆう
長嶋 有 〈小説家〉

1972年生まれ。2001年、「サイドカーに犬」で文学界新人賞を受賞してデビュー。02年、「猛スピードで母は」で芥川賞、07年、『夕子ちゃんの近道』（講談社文庫）で大江健三郎賞、16年、『三の隣は五号室』（中央公論新社）で谷崎潤一郎賞。他の著書に『もう生まれたくない』（講談社）、『佐渡の三人』（講談社）、『フキンシンちゃん』（マッグガーデン）など。

撮影：杉能信介

さどしま ようへい
佐渡島 庸平 〈編集者、コルク代表取締役社長〉

2002年に講談社に入社。週刊モーニング編集部に所属し、井上雄彦『バガボンド』、三田紀房『ドラゴン桜』、安野モヨコ『働きマン』、小山宙哉『宇宙兄弟』、伊坂幸太郎『モダンタイムス』、『16歳の教科書』などの編集を担当する。12年に講談社を退社し、クリエイターのエージェント会社、コルクを設立。漫画では『オチビサン』（朝日新聞出版）、『鼻下長紳士回顧録』（祥伝社）、『宇宙兄弟』（講談社）、『テンプリズム』（小学館）、『インベスターZ』（講談社）、『昼間のパパは光ってる』（徳間書店）、小説では『マチネの終わりに』（毎日新聞出版）の編集に携わっている。



撮影：神戸健太郎



こうの まさる
河野 勝 〈政治学者、早稲田大学政治経済学術院教授〉

1962年生まれ。イェール大学修士（国際関係論）、スタンフォード大学博士（政治学）。ブリティッシュコロンビア大学助教授、青山学院大学助教授、日本学術振興会・学術システム研究センター主任研究員などを歴任。

著書に『Japan's Postwar Party Politics』（Princeton Univ Pr）、『制度』（東京大学出版会）など。

つつみ みか
堤 未果 〈国際ジャーナリスト〉

ニューヨーク市立大学大学院国際関係論学科修士号取得。国連、米国野村證券を経て現職。アメリカと世界の政治・経済・教育・医療等、幅広い現場取材と公文書を使った分析で、執筆、講演、各種メディアで発言。『ルポ 貧困大国アメリカ』（岩波新書）で日本エッセイストクラブ賞、新書大賞 2009。『アメリカ弱者革命』（新潮社）で日本ジャーナリスト会議新人賞。多数の著書は海外でも翻訳されている。新刊に『アメリカから〈自由〉が消える【増補版】』（扶桑社新書）、『核大国ニッポン』（小学館）。夫は参議院議員の川田龍平氏。



撮影：太田真三（小学館）



せきぐち わいち
関口 和一 〈日本経済新聞社編集委員〉

1982年一橋大学法学部卒、日本経済新聞社入社。89年英文日経キャップ。90-94年ワシントン支局特派員。産業部電機担当キャップを経て96年より編集委員。2000年から15年間、論説委員として情報通信分野の社説を執筆。著書に『パソコン革命の旗手たち』、『情報探索術』（以上 日本経済新聞社）、共著に『未来を創る情報通信政策』（NTT出版）、『日本の未来について話そう』（小学館）など。